

ポストゲノムにむけた畜産研究の新潮流

平成16年11月11日、12日の両日、つくば国際会議場「エポカルつくば」において、約160名の参加者を得て、平成16年度問題別研究会「ポストゲノムにむけた畜産研究の新潮流」が開かれた。

開会にあたり横内圀生理事から、新しい畜産技術につながる研究問題を取り上げた趣旨を踏まえ

た挨拶があった。引き続き、不可能とされた哺乳動物における処女発生に成功した東京農業大学河野友宏教授より特別講演「単為発生マウスの誕生について」が行われ、ゲノムインプリンティングによる生殖細胞機能、個体発生の制御に関して新たな研究の可能性を示唆された。

続いて初日は、家畜繁殖における発生工学的手法の現状と展開方向に関して、静岡県中小家畜試の河原崎達男氏、大分畜試の志賀一穂氏から豚及び牛の体細胞クローン研究の現状、東北農研セの平尾雄二主研から卵胞培養による子牛生産、ジェネティクス北海道の早川宏之氏、北海道畜試の陰山聡一氏から精子及び卵子の性判別について報告された。いずれも将来の畜産に取り入れられる可能性の大きな技術であり、今後の実用化が期待される。

2日目は高品質肉生産のための遺伝子解析とその発現機構の解明に関連して、岩手県畜産課の鈴木暁之氏から日本短角種牛におけるDouble muscleの解析、生物研の三橋忠由チーム長から高品質肉生産と遺伝的抗病性向上、畜草研の千国幸一室長から食肉のプロテオーム解析、東京大学の加藤久典助教授から食餌タンパク質とアミノ酸の効果のトランスクリプトミクス解析、畜草研の勝俣昌

也主研からアミノ酸制御による高品質豚肉生産について、それぞれ報告された。

最新の研究成果に会場からの質問も多く、活発な意見交換が行われ、今後の畜産研究の方向を考える上で示唆に富んだ有意義な研究会となった。

（家畜生理栄養部長 松本光人）



問題別研究会2日目講演の様子